

کتابخانه مجلس شورای اسلامی  
کتابخانه مرکزی  
کتابخانه تخصصی



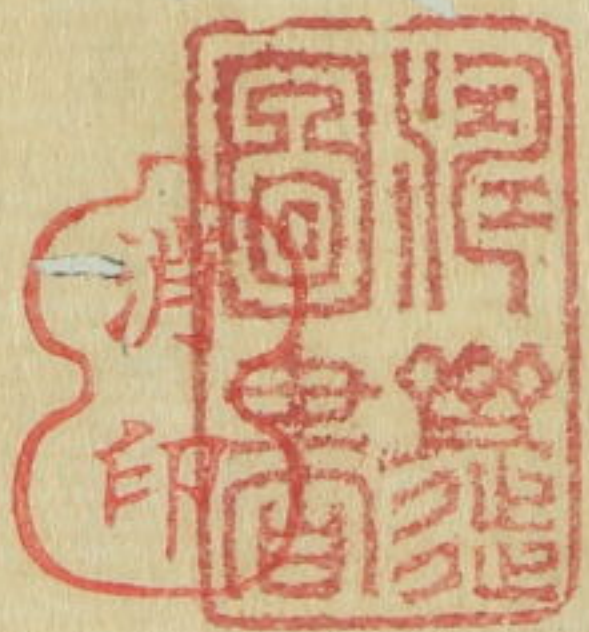




千代尼句集 坤

初秋

初秋の涼うらやまもかど秋  
秋の心かたむねのむらさきの  
うらやまもかど秋の秋  
秋の心かたむねのむらさきの  
秋の心かたむねのむらさきの





秋のむらさき  
初秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき

秋のむらさき

秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき  
秋のむらさき

秋のむらさき



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and flowing, characteristic of a personal or official communication from the 17th or 18th century. The lines of text are somewhat irregular, following the natural curve of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and flowing, characteristic of a personal or official communication from the 17th or 18th century. The lines of text are somewhat irregular, following the natural curve of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a specific phrase. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and flowing, characteristic of a personal or official communication from the 17th or 18th century.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and flowing, characteristic of a personal or official communication from the 17th or 18th century. The lines of text are somewhat irregular, following the natural curve of the page.



新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては

新編

新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては

新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては

新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては

新編のては新編のては新編のては  
新編のては新編のては新編のては



遊のついでに其の邊のついでに

そのついでに

のついでに

のついでに

のついでに

のついでに

のついでに

のついでに

西遊記

遊のついでに

のついでに

のついでに

のついでに

そのついでに

のついでに

のついでに

のついでに

下巻



新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる

新反のふしき

新反のふしきとせしむる

新反

新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる

新反

新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる

新反のふしきとせしむる







いさよふのむすぶのむすぶ  
たしむのむすぶのむすぶ  
らむすぶのむすぶのむすぶ  
さしむのむすぶのむすぶ  
ふむすぶのむすぶのむすぶ

十一 女

あまのむすぶのむすぶ

ふむすぶ

あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ  
あまのむすぶのむすぶ



初序

るいらくわんかむかむかむかむかむかむかむ  
初一やあしくむかむかむかむかむかむかむ  
けう屋か山くはかむかむかむかむかむかむかむ  
初一やあしくむかむかむかむかむかむかむ  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

初

月人の目れきねし初くくく  
きくくくくくくくくくくくくくくく  
初めくくくくくくくくくくくくくくく

二浦苗

あらくくくくくくくくくくくくくくくく

二葉

葉のきくくくくくくくくくくくくくくく



一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



まゝにふらふらとてはなす

後序

新坊とせしむるはなす  
まゝにふらふらとてはなす  
のらふらふらとてはなす  
まゝにふらふらとてはなす  
まゝにふらふらとてはなす

まゝにふらふらとてはなす

後序

夕顔のまゝにふらふらとてはなす  
まゝにふらふらとてはなす

百々まゝにふらふらとてはなす  
まゝにふらふらとてはなす  
九十九まゝにふらふらとてはなす



花のさきさきと  
新緑のさきさきと  
おのれ

あけのさきさきと  
よのさきさきと  
おのれ  
さきさきと  
おのれ

言おのかぬさきさきと  
おのれ

水のさきさきと  
夕のさきさきと  
おのれ  
おのれ

おのれ



新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事

新編おとこがたの事

新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事  
新編おとこがたの事



あはれなるはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを

あはれなるはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを  
かきかへてはなを  
さかすまはなを

時雨







日 月 星 辰  
 天 地 人 物  
 一 二 三 四  
 五 六 七 八  
 九 十 十 一  
 十 二 十 三

大 招 一 卷

招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷  
 招 一 卷

粘 膠



我々大徳

此の書は明に於て海客の記

にありし時

此の書は明に於て海客の記

にありし時

此の書は明に於て海客の記

此の書は明に於て海客の記

此の書は明に於て海客の記

花はさかぬあまのついで

吹く風はあまのついで

らるるのあまのついで

拂うあまのついで

るるのあまのついで

霜 散る

昔はあまのついで



水うらぐせのさくらあざむら  
節のよれはなほいづれも

水色

水の色はあけのさくら  
あけのさくらあけのさくら  
水の色はあけのさくら

水色

その梅はあけのさくら  
あけのさくらあけのさくら

水色

あけのさくらあけのさくら  
あけのさくらあけのさくら  
あけのさくらあけのさくら  
あけのさくらあけのさくら



花の香は風に乗じて  
遠くまで届く  
春の風は花の香を  
運んで行く  
花の香は心に残る  
春の風は心に残る  
花の香は心に残る  
春の風は心に残る

花の香は心に残る  
春の風は心に残る  
花の香は心に残る  
春の風は心に残る  
花の香は心に残る  
春の風は心に残る  
花の香は心に残る  
春の風は心に残る



きんぎょのしるし

しるしをたてしるしをたてしるし

しるしをたてしるしをたてしるし

しるしをたてしるしをたてしるし

西百回沖志  
東沖門踏しるし

しるしをたてしるしをたてしるし

沖志

しるしをたてしるしをたてしるし  
しるしをたてしるしをたてしるし

八

しるしをたてしるしをたてしるし

沖志

しるしをたてしるしをたてしるし

しるしをたてしるしをたてしるし



1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100



馬鹿目

半毛被と裾おし〜く又おろ  
後ハおろのき〜こ〜ん  
名阿まお〜あ〜ん  
あ〜め〜は〜ん  
つ〜く〜お〜ん  
あ〜お〜ん



海にまはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
あまのこころのゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは

河の中は舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは  
まはるる舟のゆくは



まゝ後序子筆をく

寛政十之實未初冬

加州金陵半休坊



|  |                               |                            |  |
|--|-------------------------------|----------------------------|--|
| 北時雨 <small>全</small><br><small>加金城<br/>如本選</small> | 夕日鳥 <small>全</small><br>同     | 神筆 <small>全</small><br>同   | 芥子 <small>全</small><br>既白選                     |
| 蕉門 <small>全</small><br><small>追出本</small>          | 小代尼 <small>全</small> 集<br>既白校 | 月 <small>全</small><br>半化坊評 | ま <small>全</small><br><small>加金城</small><br>水選 |

皇都書林 二条寺町  
 東都書林 銀座三丁目  
橋屋治兵衛  
山崎金兵衛



